アンソロジー
2023.
「自然を活かす」
「情愛を育む」
SINKEN STYLE

ふだんを
いちばんの幸福に。

会社・組織は、個の集合体である。
スタッフ一人ひとりが、どんな想いや理想を
持って 自分の仕事を研き続けるか。
その地力が、住まいを進化させ、住まい手と
良好な関係を築き、豊かな町並みをつくるこ
とにつながると確信している。

これまで45年、人を育てることが組織づくり
と考え、思想・価値観の共有を地道に行って
きた。簡単ではないけれど、取り組む意義が
あることと考えている。そして今、それぞれ
が生き生きと想いを語り、渾然一体となって
力強く動き出そうとしている。その姿勢や取
り組みが、住まいと暮らしを考える一助にな
ればと思い、「アンソロジー」として形にし
ました。

得手に 帆をかけて・・・

2023年 夏　迫 英徳

住宅バカ

とことん　とことん　やる人たち

・崖があろうと 可能性を諦めない
・竹が生い茂る土地でも 竹を刈って風景を確かめる
・法律の壁を物ともせず、壁を壊して突き進む
・自分が納得するまで ペンを置かない
・本当にそうなのか スタディしてみる……

機能的で美しい
居心地のいい住まいづくりに
情熱を燃やす

たとえ うまくいかなくても
まず やってみる！

そこまでやるのか お前は！ バカだなぁ～

そう私たちは
理想を追い求める
住宅バカ ばかりです

所属名 営業　　氏名 橋本 仁二

① そこにある環境を活かし、馴染む家をつくります。

神社の大木

山並みと田園風景

別荘地

湖畔

夕日・茜雲

広葉樹の森

街中の街路樹

空

住宅地

崖地

電車のある風景

桜島とビル群

海と松林

夜景

～土地の魅力を引き出す～

所属名　営業　　氏名　菊地晃平

② 家族の情愛を育む仕掛けを添えた家

- 階段は"あいさつ通り"
- "いってらっしゃい""おかえり"が生まれる窓
- お手伝いが自然に生まれる位置に収納を
- 人を招きたくなる家って嬉しい
- 気配を感じるちょうどいい距離感
- お父さんの書斎は娘さんの部屋の先につくっておこう。

⋮ etc

～一本の線が家族の距離感を決める～

③ 愉しみながら、育てられる家です。

- 押しピンやネジを打てる大らかな家
- "play wall"で自分色にできる家
- "次はこうしたい!"とワクワクして暮らす
- 余白を残した設計
- 未完の器、こだわり続けられる
- 「家を育てる」という文化づくり。

～ドレスでもなく、寝巻きでもない、動きやすくちょっとオシャレな普段着～

所属名 営業　　氏名 菊地晃平